



潮間帯性トビムシの仲間

大きさ：2mm ほど。

陸域には土壌動物として多くすみ、著名なトビムシであるが、海岸部に生息する特異な潮間帯性トビムシも知られている。
泡瀬地区の干潟域からは、今までエサキウミトビムシ（イボトビムシ科）とミズトビムシ（ミズトビムシ科）の2種が確認されている。

潮間帯性ということは、潮の干満によって、海の中となる場所であり、一般的に知られている土の中の環境とは大きく異なる。
どのような生活史を送っているのか、よく知られていない面白い生物でもある。

写真の個体は、干潟の上に転がっていた貝殻の中に溜まった海水の表面で、なぜか無数の個体がひしめき合っていた。
よく見ると、他の貝殻にも入っていた。